

## 第4学年 学級活動（1）指導案

- 1 活動題「出動！スペシャル係～みんなで作ろう係の輪（サークル）～」  
議題 「今、もう一度係活動を見直そう。」

### 2 活動題設定までの経過

- 題材観： 本活動は、これまで取り組んできた係活動を、「友達のために自分ができること」という視点から見直させ、自分の考えた係活動に取り組ませようというものである。

本学級児童は、1学期にそれぞれ希望の係活動を行っているが、納得いく活動が出来た児童は少なく、係活動に対して不足感を感じている児童が多い。

活動を通して子どもたちは、自分の考えた活動を実際に行い、クラスの友だちから自分の活動に対する評価を受ける。その評価の中で自分のよさや可能性に気づき、友達や教師の賞賛の言葉や行動から喜びを感じてやる気生まれ、次の活動に活かそうとするようになる。本活動を通して、本学級児童は、自分の係の中で自分がクラスのためにできることを考え（役割取得能力）仲間に必要な協力を求め共に活動できる（リーダー性・共感性）また、活動の中で相手にわかりやすく的確な表現で思いや考えを伝えるようになる（コミュニケーション能力）と考える。よって本学級児童にとって非常に意義深い活動であると考え。

- 児童観： 本学級の児童は、クラス全員で行う活動に対しては、積極的に参加する児童が多く。活動の中でたのしみややりがいを見つけることができる児童も多い。1学期にとったアンケートの結果から、「友だちのことを大切にしたい」と思っている児童が多い。しかし、「これまでに助けてもらったり相談にのってもらったりした経験がある。」という項目に「はい」答えた児童は少なかった。

このことから、他者の力になりたいという気持ちを持っていても、何をすれば相手は喜んだり、褒めてくれたりするのかが分からないので、実際に行動に移すことが出来ない児童が多いのではないだろうかと考えた。

また、係活動に対しては、しなければいけない活動で「やらされている」と感じている児童が多い。そこで、毎週の活動計画を考えるときに「活動する自分も楽しいことを行う」を基本的な考え方として持っておくように繰り返し指導してきた。

係活動を通して、クラスみんなのためにできることを探して活動するという視点を与えれば、やりがいをもって楽しみながら活動できると考えている。

- 学級の姿： 本学級の学級目標は、「サークル（輪）」である。クラスみんなで作る友達輪をつくらせて、「みんなでかしく」「みんな仲良く」「みんな元気よく」成長していこうというものである。

本学級は、男子17名、女子18名。元気が良く好奇心旺盛な児童が多い。男女の仲が良く、休み時間には男女が交じって遊んでいる姿が見られる。少し言葉遣いが荒い児童も見られるが、友達のことを考え、「優しく大切にしたい」という思いをもっている児童が多い。

2学期に入りクラスの輪になかなか入りにくい児童が数名いた。そんな時に、学級みんなで作るドッジボールをすることを提案して、クラスに入りやすい雰囲気をつくらせたり、給食前や中休みに二人に積極的に声をかけたりして自分がクラスに必要とされていると感じる場面をつくらせようとして努力している姿が見られた。ここでの関わりは、「友達の求めているもの」と「自分ができること」を考える機会になっている。

### 3 指導にあたって

(1) 事前 まず、自分のよい点に気付かせるために2つのアンケートを用意した。1つは、自分を振り返るアンケート。もう一つは、クラスの友だちによいところを教えてあげるものである。

次に、学級会の中で活動の案や工夫を引き出すため、どんな係・活動内容があるとクラスが楽しくなるかを考えさせ、求められている活動を示した。考え方として『「しなければならないもの」は日直や当番の仕事』とした。

そして、自分のよさを生かせる係を決め活動する。アドバイスカードをつくり、活動をしていく中で、他の係の児童からアドバイスをもらい、自分の活動にいかせる場をつくった。

(2) 事中 2学期に入ってから係活動を振り返って、「友だちのためにできること」という視点から自分の係と友達の係を改善していく話し合いを行う。

まず、各係からこれまでに行なった活動について報告を行なう。次に、各係に対して「こんな活動をしてくれてありがとう」と「クラスが楽しくなる」「友達を大切にする」という視点からのアドバイスを出し合う。

そして、自分たちの係活動を振り返りながら出された意見を参考にしてこれからの活動を考えて、話し合い決まったことを発表する。

(3) 事後 話し合いで改善された自分たちの活動を実行する。係活動発表会・表彰式で自分たちの2学期間の活動を発表する。友だちの活動のよかったところを評価し伝える。(表彰する)

### 4 目標

- 係活動を通して、自分がのぞむ姿を思い描きながら、クラスの友達のためになる活動を見つけようとするができる。(関心・意欲・態度)
- 係活動を通して、友だちの意見を聞き、自分の考えと比較しながらクラスのためになる活動を考え、自分にできる仕事を探し活動することができる。(思考・判断)
- 伝えたいことを効果的に伝える工夫をしながら発表したり、自分の考えと友達の考えを比較しながら発表したりし、協力し合って活動することができる。(技能・表現)
- 伝えたいことを効果的に伝える工夫をしながら発表したり、自分の考えと友達の考えを比較しながら発表したりし、協力し合って活動することができる。(技能・表現)

## 5 指導計画

### (1) 事前

児童の活動	教師の指導 ◎自己価値力を育成するてだて	日時
(1)自分のよさを振り返るアンケートに答える。	◎自己評価力の高まりを感じさせるため、どんなに小さなことと思うことでも自分の考える「よいところ」を書かせる。	9月10日
(2)友だちによさを伝えるアンケートに答える。	◎自己価値を感じさせるために一人に必ず一つはよいところがあることを伝え、友達全員の良いところを探させる	9月14日
(3)自分のよさをいかせる係を考え、同じ考えを持つ友だちと一緒に活動を考え、実行する。	◎クラスについての関心を持たせるために、友達の評価を参考にして活動する係を考えさせる	9月19日 ～
(4)「ありがとうカード」で他の係仕事を賞賛する。また「がんばってカード」で他の係の友だちにアドバイスをする。	◎活動への意欲を持たせるために「ありがとうカード」を何枚もらえたかを係ごとに掲示する。 ○ クラスについての関心を持たせるために、「クラスのみんなのための活動」という視点を持たせアドバイスを考えさせる	随時
(5)見直しの話合いの内容を話し合う	見直しの話合いに関心を持たせるため、見直しの話合いの名前とプログラムについて話し合う。	9月26日
(6)見直しの話合いに向けて自分たちの活動を振り返り、発表の準備をする。	○コミュニケーション能力をつけるため、自分たちのがんばったことをアピールできる場であることをしっかり認識させ、原案の原稿の言葉一つ一つまで話し合わせる ○発表の中での役割を必ずもつようにさせる。	10月17日 ～21日

(2) 事中

① ねらい

- 自分の係活動を振り返って、「友だちのために自分ができること」という視点から友だちの意見を参考にして新しい活動を考えることができる。(思考・判断)
- 伝えたいことを的確に伝える工夫をしながら発表したり自分の考えと友達の考えを比較しながら発表したりすることができる。(技能・表現)

② 活動計画

児童の活動	教師の指導 ◎自己評価力を育成する手だて
<p>1 はじめのことば</p> <p>2 議題・提案理由の確認をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">議題：今、もう一度係活動を見直そう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">提案理由：クラスみんなのためにできることを考えて、係活動を盛り上げていき、クラスのサークルを大きくしたいから。</div>	<p>◎事前にリハーサルを行い、自信をもって進行させる。</p>
<p>3 めあての確認をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが、みんなのためにしてきた係活動を友達にわかりやすく発表しよう。</li> <li>・友達のアドバイスを参考にして、これからの自分たちの係活動を考えてよいものにしよう。</li> </ul> </div>	
<p>4 先生の話聞く</p> <p>5 話合いをする</p> <p>(1) アピールタイム (各係からの活動報告)</p> <p>(2) 質問タイム</p> <p>(3) 交流タイム (各係に対しての「ありがとう」と「アドバイス」をする)</p> <p>(4) スマイルタイム (ふり返り・係活動の再考をする)</p> <p>(5) 決定タイム (修正箇所報告)</p> <p>6 ふり返りカードの記入をする</p> <p>7 先生の話聞く</p>	<p>◎「クラスみんなのためにする活動」という活動を評価する際の視点を与えておく。</p> <p>◎わかりやすく伝えるために、聞き手側の「見やすい」「聞きやすい」を考えさせる。</p> <p>◎共感性を育てる点から、一人一役を決めさせ、できないときは友達に協力を求めるように促す。</p> <p>◎コミュニケーション能力を育成するため「クラスみんなのためにする活動」という活動を評価する視点をもってわかりやすくアドバイスするように促す。</p> <p>◎「クラスみんなのためにする活動」という活動を評価する視点から自分たちの活動を振り返らせる。</p> <p>◎友達の意見をいかし、これからの活動に考えるように促す。</p> <p>◎ふり返りカードにどんなことを書いているかを机間巡視で把握し、しっかりと評価できている例を「先生の話」で取り上げる。</p> <p>◎本活動を通して見つけた児童のよさや考え方のよさなどを伝え、今後の活動への意欲をもたせる。</p>

### (3) 事後

児童の活動	教師の指導	日時
(1)話し合いで改善された自分たちの活動を実行する。	◎「クラスみんなのためにする活動」という基本的な考えをもって活動させる。	10月22日以降 随時
(2)係活動発表会・表彰式で自分たちの2学期間の活動を発表し振り返る。	◎各係に対して他の係の児童が「がんばったところ」を評価する時間を取り、友達の評価も含めて振り返らせる。	12月
(3)友だちの活動の良かったところを評価し伝える。(表彰)	○今後の活動にも意欲を持たせるために、表彰という形で頑張ったことをしっかり賞賛する。	12月

### 6 評価

- 係活動を通して、クラスの友達のために自分がのぞむ姿を積極的に探したり考えたりすることができたか。(関心・意欲・態度)
- 係活動を通して、友だちの意見を聞き、自分の考えと比較しながらクラスのためになる活動を考え、自分にできる仕事を探し活動することができたか。(思考・判断)
- 伝えたいことを的確に伝える工夫をしながら発言したり、友達のアドバイスを受け入れ、活動にいかすことができたか。(技能・表現)
- 係活動を通して自分の成長やこれからの可能性に気づくことができたか。(知識・理解)

7 活動見取り表

学級目標		サークル（協力）		
		かしこく	なかよく	元気良く
評価項目		役割取得能力	共感性	意欲・態度
		自己評価力	リーダー性	コミュニケーション能力
実態	プラス面	認められたい思いをもっている 良いところを正當に評価できる	男女の仲が良い クラスで活動することがすき	体を動かすことが好き 物怖じしない
	課題面	集中力がない 他人任せの部分が多い	自己中心的 傷つける言動	仕事に対して消極的 思い・考えを上手に表現できない
事前の活動	所属係の決定	<b>役割取得能力</b> 自分はどんな係が向いているか 考えることはできたか	<b>共感性</b> 仲間と協力して活動しているか	<b>意欲・態度</b> 自分に向いている係を積極的に 探したり考えたりできたか
	係活動	<b>役割取得能力</b> 自分にできる仕事を探したり考 えたりして活動しているか  <b>自己評価力</b> 自分自身の成長や価値に気づ き、自信を深めているか (クラスに自分が必要だと気づ いたか)	<b>共感性</b> 仲間と協力して活動しているか  <b>リーダー性</b> 自分の係の中での役割に責任を 持っているか 仲間に必要な協力を求め活動で きているか	<b>意欲・態度</b> 自分にできる仕事を積極的に探 したり考えたりしているか  <b>コミュニケーション能力</b> 友達の活動に対してわかりやす い言葉で的確にアドバイスでき ているか
	見直しのお話合い の準備	<b>役割取得能力</b> 自分にできる仕事を探したり考 えたりして活動しているか	<b>共感性</b> 仲間と協力して活動しているか  <b>リーダー性</b> 自分の係の中での役割に責任を 持っているか 仲間に必要な協力を求め活動で きているか	<b>意欲・態度</b> 自分にできる仕事を積極的に探 したり考えたりしているか  <b>コミュニケーション能力</b> 自分たちが行った活動をわかり やすい言葉で発表する方法を考 えることができたか。
事中の活動	見直しのお話合い	<b>役割取得能力</b> 自分の発表の中での役割を考え て責任を持って活動しているか	<b>共感性</b> 仲間と協力して活動しているか  <b>リーダー性</b> 仲間に必要な協力を求め活動で きているか	<b>意欲・態度</b> 自分にできる仕事を積極的に探 したり考えたりしているか  <b>コミュニケーション能力</b> 自分たちが行った活動を友達に わかりやすい言葉で伝えること ができたか。 友達の活動に対してわかりやす い言葉で的確にアドバイスでき ているか
	活動の振り返り  活動の再考	<b>役割取得能力</b> 自分にできる仕事を探したり考 えたりして活動しているか  <b>自己評価力</b> 自分自身の成長や価値に気づ き、自信を深めているか (クラスに自分が必要だと気づ いたか)	<b>共感性</b> 仲間と協力して活動しているか  <b>リーダー性</b> 自分の役割に責任を持っている か 仲間に必要な協力を求め活動で きているか	<b>意欲・態度</b> 自分にできる仕事を積極的に探 したり考えたりしているか  <b>コミュニケーション能力</b> 友達の活動に対してわかりやす い言葉で的確にアドバイスでき ているか
事後の活動	係活動  係活動発表会  表彰式	<b>役割取得能力</b> 自分にできる仕事を探したり考 えたりして活動しているか  <b>自己評価力</b> 自分自身の成長や価値に気づ き、自信を深めているか (クラスに自分が必要だと気づ いたか)	<b>共感性</b> 仲間と協力して活動しているか  <b>リーダー性</b> 自分の役割に責任を持っている か 仲間に必要な協力を求め活動で きているか	<b>意欲・態度</b> 自分にできる仕事を積極的に探 したり考えたりしているか  <b>コミュニケーション能力</b> 友達の活動に対してわかりやす い言葉で的確にアドバイスでき ているか

## 8 活動の実際

### <事前>

まず、自分のよさを振り返るアンケートでは、「絵がうまいとみんなに言われるから絵を描くのが得意。」や「弟(妹)の面倒をよく見るから、やさしいと言われる。」など理由もつけて、自分のよさを1つは探すことができた。

次に、友達のよさ探しでは、クラス名簿を配り名前を見ながらその人のよさを探した。一人一人に対して「友達にやさしい。」や「みんなを笑わせてくれて楽しい。」などよさを考えて書くことができていた。

そして、係決めの際には、自分の得意なことがいさせる係を考えてつくり、所属するようにして係への所属を決めていった。結果10の係(宿題・新聞・図書・保健・体育・なかよし・給食・音楽・整理・くつばこ)ができ各係3~5名が所属して活動を始めた。

毎週金曜日の朝活動の時間に1週間の活動の計画を立て活動する。前日に計画通りの活動ができていればオレンジのシールをはるようにした。

他者とのかかわりは、「ありがとうカード」(写真中の赤のカード)や「がんばってカード」(同青のカード)を使った。友達の係活動への賞賛やアドバイスでは、「新聞係へ、楽しい新聞をつくってくれてありがとう。」や「宿題係へ、がんばった人に賞状をあげたらいいと思うよ。」など積極的に友達の係への評価を行っていた。



### <事中>

見直しの話し合いの中では、まず各係から2学期に入ってきた活動の報告があった。

報告内容には、

- ①自分たちの係を簡単に紹介するキャッチコピー
- ②自分たちの係ががんばったこと
- ③今活動を行なっている中で困っていること

を必ず入れるようにした。

各係の持ち時間は 45 秒で、聞いている人がわかりやすいように工夫をすること事前に伝えて練習させていた。

「クイズ」を使ったり「あいうえお作文」を使ったり各係とも工夫を凝らして発表していた。

発表で使った各係のポスター



話し合いの板書

話し合いは、計画委員が中心となって進めた。活動報告の後、各係に対してがんばっていたことへの賞賛（ありがとう）とアドバイス（がんばって）が出されているところである。

出されたアドバイスには、

「内容をみんなが興味のあるものにしてみたらどうですか？」（新聞係へ）

「いただきますの時に今日の献立を言ってはどうですか？」

（給食係へ）などがあった。



各係に対してありがとう（板書上段）とアドバイス（板書下段）が出され、各係で今後の活動について検討している場面である。

この後各係から、アドバイスを参考にしたり自分たちで新たな活動を考えたりした今後の係活動計画が報告された。

今後の活動計画の中には、

「月に一回大きな新聞を発行します。その中でみんなにアンケートを取ってランキングを発表します。」（新聞係）や

「明日からいただきますの時に献立を言っていこうと思います」などアドバイスを参考にする係が多かった。

アドバイスは分かりやすいように黄文字で板書した

<事後>

見直しの話し合いの中で、決めた活動を行っている。事後も引き続き毎週金曜日の朝活動の時間に1週間の活動の計画を立て活動する。前日に計画通りの活動ができていればオレンジのシールをはるようにしている。「ありがとうカード」「がんばってカード」も引き続き活用している。

## 9 成果と課題

- 活動見取り表を活用したことから、その時間にねらう力（意欲・態度、役割取得能力、共感性、リーダー性、コミュニケーション能力、自己評価力の6観点）が明らかになり指導にいかすことができ



た。

- 子どもたちは、「くつばこ係」が、賞賛された靴箱清掃の範囲を広げたり、図書係が、お勧めの本や図書室に関する情報を伝える『図書新聞』をつくったりと自分のしたいことやできることを積極的に探して活動をするようになった。
- 他の係の活動にも、目が向くようになり、「明日、朝ドッチをします。新聞係は取材をしたらどうですか？」や「給食係は、給食の残り0が続いています。何か考えたらどうですか？」など、朝の会や帰りの会でのアドバイスが増えてきた。
- アンケートの結果から、子どもたちの意識の中に、クラスのみんなのことを考えて活動してきたことから、「人のために役に立っている」という自信がついた。  
「あなたは自分に自慢できるところがありますか？」に「はい」と答えた子どもの割合  
<5月>35名中23名(65.7%) → <10月>36名中30名(83.3%)  
「自慢できることは何ですか？」  
<5月>鉄棒が上手、野球がうまいなど  
<10月>係活動をがんばっている。教室のごみをよくひろう。など  
自慢できる内容が、運動や計算などが人よりもできるものから学級内での自分の活動に変わった。
- 係を決める時に当番活動や時間割にある名前を用いてしまったため、子どもたちの活動への発想が、しなければならぬものからなかなか広がらなかった。
- 他者に自分の思いを理解してもらうためにわかりやすく説明をする力に個人差が見られる。今後の話し合い活動の中でも、「相手が理解できる言葉を使う」という意識をさせていく。
- 自分の役割には責任を持って仕事を行うが、友達をリードして協力を求めることができない。そこで、今後の活動の中で係全体がどんな活動をしているのかを振り返りの時間にしっかりと考えさせるようにしていく。